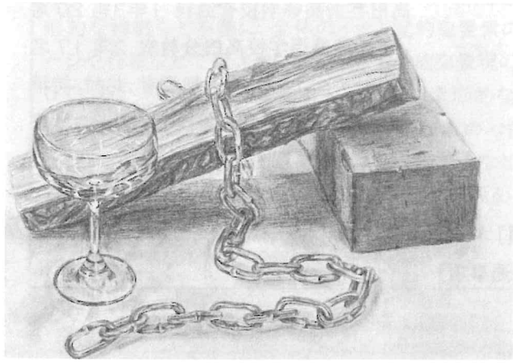
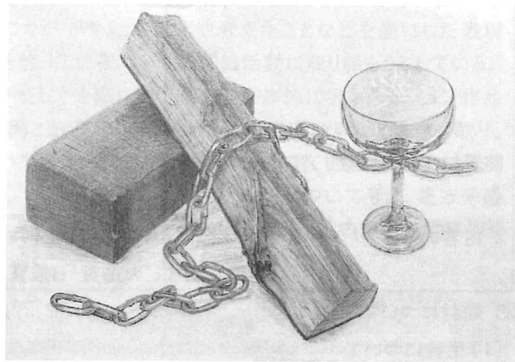
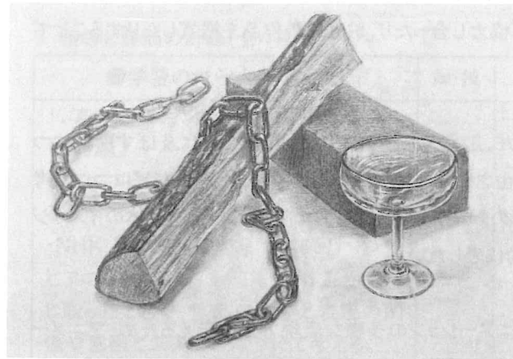
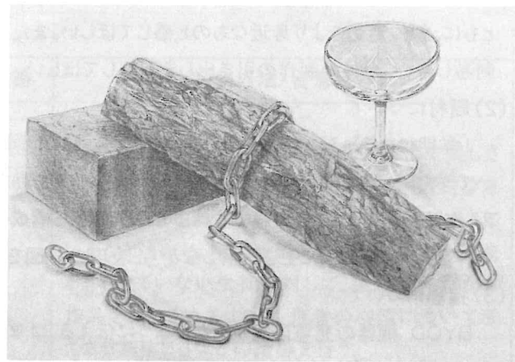
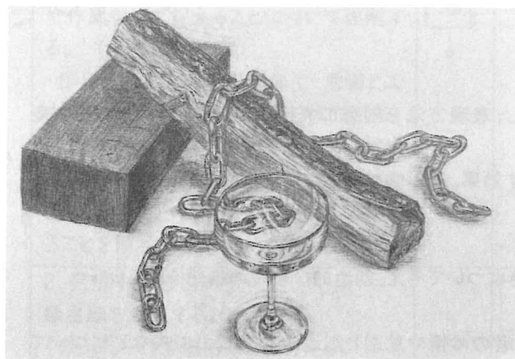
2～5．制作（7時間） ●全体の陰影をつける。 ・光の方向を観察しながら、大きな陰影をつけて、全体の量感、空間をとらえる。細部にこだわらずに全体感を大切に描いていく。	知	発 鑑	鑑表 鑑態	・モチーフ全体の光の方向を確認し、大きな明暗をつけさせる。同時に床に落ちる影も描き、全体の量感、大きな空間を捉えながら描き進めさせる。また、形を確認し、修正しながら描き進めるように指導する。
●個々のモチーフを描く。 ・モチーフをよく観察し、モチーフの持つ形や色、質感の美しさ、面白さを感じながら描いていく。また、個々のモチーフの色や質感の違いを観察し、鉛筆の使い方、表現方法を考えながら描いていく。	技			・正確に写し取ることのみを目的とするのではなく、個々のモチーフの形や色、質感の美しさ、面白さを感じ取り、表現するように指導する。質感の表現方法を考えさせる。質感に合わせた色の塗り方、線の引き方、タッチなど、鉛筆の使い方を考えて自分なりの表現を工夫させる。
●空間を捉える。 ・床から浮いた空間をどう表現するのか、モチーフと影をよく観察して表現する。また、モチーフ全体の奥行きを捉えて表現する。	知 技	発 鑑	鑑表 鑑態	・モチーフが浮いている部分は床やモチーフ同士の接地面からの影の変化、モチーフが重なっている部分は手前と奥のモチーフを同時に見ながら、モチーフの関係性を捉えさせる。 ・モチーフ全体の空間、奥行きの表現方法を考えさせる。鉛筆の塗り方や筆圧を変える、などヒントを与えて表現方法を工夫させる。 【活動の様子、制作中の作品、ワークシート】
6．鑑賞（1時間） ●生徒作品を鑑賞し、見方や感じ方、表現についての考え方を深める。 ・お互いの作品を鑑賞し、モチーフの捉え方や表現の工夫について考える。		鑑 鑑	鑑態 鑑態	お互いの作品を鑑賞し、色々な表現方法を知ることで、自分の作品の良さや足りない部分を確認させる。また、お互いの作品を分析させることで、作品を客観的に見る力を身につけさる。 【活動の様子、ワークシート】

【生徒作品】　（四つ切画用紙に鉛筆）